

エクアドル TR4検疫警報でバナナ産業が緊急措置を発動

[FreshPlaza](#) 2025年12月22日

エクアドルの植物検疫・動物衛生規制管理庁(Agrocalidad)は、エルオロ州のバナナ農場においてフザリウム萎凋病菌(Foc TR4: *Fusarium oxysporum* f. sp. *cubense* Tropical Race 4)の存在を正式に確認し、直ちに防除措置を発動するとともに、6か月間の植物検疫緊急事態を宣言した。

Foc TR4は、世界のバショウ科(Musaceae)作物の栽培に対する主要な脅威の一つであり、現在、農業による防除手段や抵抗性を有する商業的栽培品種は存在しない。本件の検出は、実験室での検査及び確立された診断手順により確認されたものであり、バナナ、プランティン(調理用バナナ)、オリト(小型バナナ)等のバショウ科作物に影響を及ぼす可能性がある。

バナナ販売輸出協会(Acorbanec)のリチャード・サラザール事務局長は、同国はこの既知の脅威に備えて数年間準備を進めてきたと述べ、「この真菌はバナナ産業全体にとって真の、そして継続的なリスクをもたらす。現在、化学的防除手段も抵抗性品種も存在せず、バイオセキュリティが極めて重要である」と強調した。

公式報告によれば、約7ヘクタールの農場で発生が確認され、直ちに根絶措置が実施された。また、半径5キロメートル以上の広範な範囲で監視が実施されたが、現時点までに病原菌の拡散は確認されていない。サラザール氏は、「病害は封じ込められているようだ。コロンビアでも同様の状況が発生したが、迅速な介入によりさらなる拡大を防ぐことができた」と述べた。

Agrocalidadは、「今回の検出は人の健康や消費にリスクを及ぼすものではなく、エクアドル産バナナの輸出、国内市場、価格、品質にも影響しない。特定された発生は限定的であり、国内外の基準に沿った厳格な技術手順の下で管理されている」と説明した。

エクアドル政府は、国及び国際協力による資源の活用を可能にするため、バナナ産業に対して植物検疫上の非常事態を宣言した。目的は、疫学的障壁を強化し、生産者に不利益を与えずに技術的措置を実施することである。当局が当該地域で真菌の存在を初めて疑った2025年9月に発動された国家緊急対応計画は、専門技術者の動員、移動手段の確保、消毒ポイントの設置及び国際専門家の支援を含んでいる。

輸出部門では、生産チェーン全体にわたるバイオセキュリティ対策の強化が進められている。サラザール氏は、「これはCOVIDのようなものだ。非常事態が宣言された際には、我々全員が厳格なバイオセキュリティ対策を採用しなければならない。各生産者は自らの資産を管理する責任がある」と述べた。主な対策には、農場への立ち入り管理、車両及び履物の消毒、無許可の人員の制限、港湾・空港・国境での管理強化等が含まれる。

Acorbanecは、生産及び供給に関する即時及び中期的なリスクを否定した。サラザール事務局長は、「生産や市場の信頼には影響していない。数か月間警戒態勢を維持しているが、感染は拡大していない」と述べた。同氏はまた、エクアドルのバナナ輸出は今年も引き続き増加傾向にあることを指摘した。

官民の連携が不可欠となっている。Acorbanecはフザリウム技術委員会に参加しており、同委員会にはAgrocalidad、生産者、輸出業者、大学、研究センターが参加し、管理戦略の評価及び改善のため定期的に会合を行っている。また、現場技術者やドローン等のツールを活用した継続的な監視も実施されている。

最後に、Agrocalidad及び民間部門は、継続的な監視と調整の必要性を強調した。サラザール氏は「これはこのセクターが直面する最初の病害でも最後のものでもない。今こそ責任を持ち、規律と意識をもって行動すべき時である」と結論付けた。

執筆者: ダイアナ・サジャミ